



野崎学長 新年あいさつ 2面

合言葉は「つなぐ つなげる つながる」

創立25周年記念事業

小澤辰男氏のレリーフ完成 本学のヒストリーパネルも 8面

創立25周年記念事業 経営情報学部シンポジウム 3面

男子400mリレー 県陸上選手権で輝く2連覇 6面

2020年度一般入試日程の概要とポイント 7面

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

CONTENTS

2・3面

湧源
「にいがたBIZ EXPO」に初出展
建学の理念込めたキャッチコピー制定

4・5面

COC+国際交流事業
有志15人 通訳ボランティアに挑戦
小宮山研究室 地域づくり活動
内田研究室
十日町活性化プロジェクト

6・7面

FD研修会 開く
企業懇談会に293社が参加
新任教員紹介
2020年度一般入試
教員の活動

8面

創立25周年記念事業
生まれ変わった
キャリアサポートセンター



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



LINE@
[@nuis-line3111](https://line.me/tv/add/@nuis-line3111)
LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録



Twitter
[@nuis_rabbit](https://twitter.com/nuis_rabbit)



YouTube
公式
チャンネル

合言葉は「つなぐ つなげる つながる」

新年
ごあいさつ



学長 野崎 茂

学生の皆さん、ご父母ならびに教職員の皆さま明けましておめでとうございます。
清々しい
気持ちで新
たな年を迎
えられたこ
ととお慶び
申し上げます。

昨年新潟県は国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催で大いに盛り上がりました。ラグビーワールドカップでの新潟出身稲垣啓太選手の活躍も見事でした。日頃大人しい、あるいは奥ゆかしいと言われる新潟県人も弾けるときは

弾ける。新潟県人の、それも若い人たちの底力を見せつけられた年でもありました。

本学も創立25周年を迎えた昨年は春先から各種記念行事で盛り上がりしました。環日本海経済研究所、にいがた産業創造機構との共催による国際化フォーラム「地域と共に！未来へ」、小和田恆氏を本校みずき野キャンパスに迎えての記念講演「21世紀の国際秩序と国際裁判」、国際学部、経営情報学部による新潟中央キャンパスでの記念シンポジウムなどの開催が相次

立者小澤辰男先生のレリーフと共に、世界地図上にこれまで本学が歩んできた歴史を記したパネルを設置しました。このパネルにはこれからの25年、50年、100年の歴史を掲載できる十分なスペースが設けられております。

また、本学のアイデンティティを表すキャッチコピーを新たに募集し選考を行ったところ、結局「つなぐ つなげる つながる」が選定されました。従前の名意句を引続き利用することになった訳ですが、温故知新ということ、若い伸び盛りの本学に相応しい、

踏み出そう 新たな四半世紀へ 咲かせよう NUISの大輪を

ぎ、いずれも好評裡に終えることが出来ました。また4月に立ち上げた社会連携センターも地域社会や産業界を相手に積極的に活動を開始し、順調に「協働」という所期の目的を達成しつつあります。一方施設面での挺入れとして、みずき野キャンパス管理研究棟エントランスホールの壁面に本学創

ましてまだまだ活用出来る素晴らしいキャッチコピーだと思っております。

さあ、新しい四半世紀の始まりです。これから皆さんと一緒に伝統を作り上げて参りましょう。NUISの輪をますます広げて参りましょう。そして先程紹介した「パネル」に輝かしい歴史を書き込んで参りましょう。

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 西山 茂

白鳥の季節である。あのかい鳥が大きな声で鳴いて寒空を飛んでいく姿を見ると、「ああ、また冬が来た。」としみじみと感じる。白鳥は、私にとって冬を告げる鳥であるとともに、昨年今年と入学試験の季節の始まりを告げる鳥でもある(フウツ)。

本学の周りは田んぼだらけである。田んぼの中に浮島よろしくみずき野の住宅街と本学が浮かんでいる。この田んぼに白鳥が舞い降りて、餌をついばむのである。稲刈りを済ませた田んぼには落穂があり、刈り取った稲の株から二番穂、三番穂が出る。それを餌としているとのことである。田んぼだらけの新潟に多く白鳥が飛来するわけである。この大学の近くに佐潟という潟がある。ここにもシベリアから白鳥が飛来する。白鳥は朝方佐潟を飛び立って田んぼに行き、夕方田んぼから佐潟に戻る。まるで通勤・通学をするようである。私も朝方、この白鳥を空に見上げて「おはよう」とつぶやいて大学に出勤し、夕方、暗くなった空を鳴き声だけの白鳥を見上げて「ご苦労さん」とつぶやいて家路に急ぐ。

私は新潟で生まれ、高校卒業まで新潟に住んでいた。そのころ(凡そ50年前)でも瓢湖などに飛来する白鳥のことは新聞、TVなどで知っていた。しかし、田んぼに出かけていくとは知らなかった。白鳥は日がな一日潟や湖にいたのだと思っていた。以前新潟市役所に勤めていたが、所用で外出した折に田んぼに沢山の白いものを目にし、初めてそれが白鳥が餌をついばんでいる風景であることを知った。子供時代の行動範囲の狭さや情報量の少なさを改めて思い知った(今の子は違うのかもしれないが)。ともあれ、白鳥諸君、今年も春までそして入試シーズンが終わるまで、よろしく!!

経営情報学部シンポジウム

一昨年4月、情報文化学部は情報システム学科に加え経営学科を設置し、経営情報学部として新たにスタートしました。昨年4月には社会連携センターが設置され、地域・産官学の連携も徐々に充実してきたことから、去る11月16日、新潟中央キャンパスで、連携を推進する「大学とまちづくり」ものづくり「ひとづくり」をテーマに、地域創生シンポジウムを開催しました。

特別講演では燕三条地場産業振興センターの平賀仁産業振興部長から、燕三条地域の技術・産業の変遷や産学連携の実践について報告がありました。地域・産官学の連携を進め



産学連携について特別講演する平賀仁氏

まちづくりものづくりひとづくり 実践報告 事例紹介 研究発表

折立地区における地域活性化の活動報告がありました。地域が笑顔になることや地域の一員となつて主体的に活動を行っている模様の動画でのプレゼンテーションはとも印象的でした。続いて石井忠夫教授からの研究成果の発表後、教員らのニーズ紹介のポスターセッションに移り、活発な意見交換が行われ閉会しました。学部学生の教育と研究に加え、今後地域・産官学の連携を積極的に展開していくと、決意を新たにしたシンポジウムとなりました。

(経営情報学部長 小林満男)

藤田晴啓研究室から佐渡市の羽茂小泊の地域活性化への取り組みとして、足掛け8年に及ぶ能とプロジェクトの融合を融合した佐渡能楽プロジェクトの事例紹介がありました。地域と行政にヨソ者(若者)たちが加わった活動から、地域活性化のヒントが見えつつあるように感じました。

また、土屋翔研究室の学生たちからは、柏崎石黒地区と魚沼市下

「いがたBI-Z EXPO」に初出席

本学は昨年9月26、27日の両日、新潟市産業振興センターで開催された県内最大級の商談型産業見本市「いがたBI-Z EXPO」に出展しました。

「いがたBI-Z EXPO」は2014年から開催され、今年で6回目を迎えた見本市で、県内外から226の企業や官公



来場者に本学を紹介する本学職員(左)

庁、教育機関が出展したほか、講演会や商談会、プレゼンテーションが行われ、自動運転トラクターやラジコン草刈機、農業散布用ドローンなどの企画展示も開催され、2日間の入場者は延べ約1万1千人にのびりました。

本学は開学25周年を迎え、今

地域連携活動事例集を配布

入場者に本学アピール

まで以上に地域、産業界との連携を密にし、本学及び教員の研究活動を広く知ってもらうために初めて参加しました。地域連携委員会が今年度で作成した本学教員の活動をまとめた『地域連携活動事例集』と、新たに企業との連携を強く意識した経営情報学部教員による『経営情報学部シーズ集』を取りまとめ、本学出展ブースの来訪者に大学

をアピールするとともに配布しました。初日には商談の申し込みもあり、担当者から商品および導入について丁寧な説明を受ける機会もありました。各企業の出展ブースに常駐している社員や一般の入場者の中には本学の卒業生も多く、20年間卒業生を送り出してきた年月の長さ、また、多くの卒業生が



https://www.nuis.ac.jp/pub/regional_collaboration.html

応募総数135件

建学の理念込めたキャッチコピー制定

本学は創立25周年を機に、本学的に確に印象深く、広く社会にアピールする短文で本学が元気になるキャッチコピーを募集し、この度、「つなぐ つなげる つながる」を制定いたしました。

会)、企業および官公庁など、地域に住み地域に生きるすべての皆さまとともに、「共存共栄していきたい」という思いが込められています。これからの大学案内や広告などに幅広く活用していく予定です。

制定したコピーには、地元新潟、日本、アジア、世界と、在学生、父母会、同窓会(みずき

つなぐ
つなげる
つながる

募集にあたりましては、在学生をはじめ、卒業生、教職員から合計135件の応募をいただきました。大変ありがとうございました。

「ひと・まち・しごと」を循環させる人材の育成テーマに、平成27年度から5年間実施される、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」が最終年度を迎え、本学も新潟の魅力在海外に発信する新たな事業に取り組みました。

この事業は新潟大学を中心に、本学を含む県内外の大学、自治体、企業、経済団体などが一体となって、地方創生に取り組みます。改革「や」地域活性化／産業振興」「教育の国際化」などを推進して県内の就職率を向上させ、国内外からの人口流入の実現を目指しています。

最終年度の今回、本学では新潟の魅力を発信する事業を企画し、本学の担当教員と学生が海外の提携大学を訪問してプレゼンテーションを行いました。



新潟の地図を示して本学を紹介(アルバータ大学)

本学から新潟の魅力発信

カナダ・ロシア・韓国でプレゼンテーション



プレゼンのあと折り紙などでも交流(ウラジオストク国立経済大学)

カナダのアルバータ大学では、海外夏期セミナーに合わせ、セミナーに参加する本学学生が新潟をアピールするプレゼンテーションと、アンケート調査「新潟(日本)への渡航歴やプレゼンの感想」を実施しました。

ロシアでは、ウラジオストク国立経済大学に留学中の本学の学生が日本の軽音楽の紹介や古代ロシア文字のワークショップを行いました。

韓国は国際学部の竹之内一葉さんが、光云大学校と慶熙大学校を訪れました。光云大学校では、交換留学生として本学に来る予定の学生が日本語を学ぶクラスで新潟や本学を紹介し、慶熙大学校では、韓国語を学ぶ留学生を対象にプレゼンテーションを行いました。

COC+国際交流事業は今年度で終了しますが、これからの国際交流に向けて新潟や本学をアピールする有意義な機会となりました。

これまでの国際交流事業の詳細は、下記のURLからご覧ください。

https://www.nuis.ac.jp/pub/nuis_internationalexchange_report.html

小宮山研究室の地域づくり活動

魚沼市 小出地区

経営学科2年生の小宮山応用ゼミナールのメンバーは、小出商店街で地域活性化の活動を行っています。昨年11月6日、魚沼市小出地区の方とともに、小出小学校と地域住民の連携を考えるワークショップ「小出の明日を語る会」に参加してきました。



「小出の明日を語る」ワークショップ

3回にわたって調査を実施し、その結果、商店主が技術や知識を伝える少人数の「まちゼミ」という活動が、小出以外の近隣地域からの新たな顧客獲得につながっていることが明らかになりました。また小宮山ゼミの先輩たちは、9月に行われた地域ボランティア

住民と商店街の連携探る

「明日を語る」ワークショップに参加

の方と小出小児童が店舗を訪れる「地域交流遠足」に参加しました。その先輩の調査によると、児童だけでなく地域ボランティアの方にも商店街を説明していく中で、新たな発見があることがわかりました。

こうした経緯から、私たちは小学校と協力して、商店街をあまり居場所をつくりたい」とする意見が多かったのが印象的でした。今回学んだことを活かして、微力ながら商店街の皆さんや小出小学校の児童、地域住民の方々とともに、より良い小出の実現する提案を、チーム全体で頑張りたいと思います。(情報システム学科2年 五十嵐慎吾)

上越市 宇津俣地区

上越市宇津俣地区で、先輩から引き継いだ産物の販売促進事業を行っている小宮山研究室のメンバーは昨年11月、同地区の農業イベント「雪太郎大根いっぺごと祭り」でプロジェクトの発表を行いました。

特産品の販促活動を提案

「雪太郎大根いっぺごと祭り」で発表

宇津俣地区は中山間地の世帯数が16戸、人口38人の小さな集落ですが、20年以上前から農業法人組織化・ブランド化(農事組合法人雪太郎の郷)・6次産業化を進めている地域おこしの先進地域です。耕作放棄地を再生させることで、若者の雇用まで生み出しています。

面持ちでしたが、いざ発表の舞台に立つと各々が個性的な発表を行い、参加している人々を惹きつけることができました。終了後には、多くの方が販売促進案への

作り出された産物の販売促進のために、私たちは新潟市内の祭などでの試食・販売、さらに宇津俣を題材とした謎解きイベントを開催しました。宇津俣に関心をもった方が情報を得られるようにホームページも開設しました。こうした活動をこのイベントで報告しました。さらに本年3月までの3つの活動を提案しました。

当日の発表は非常に盛況でした。発表が始まるまで、皆、緊張

(情報システム学科4年 渡合圭)



地元の方と調理する在学生(右)

日ごろ鍛えた英語力の見せどころ―国際学部佐藤泰子講師の呼びかけで集まった本学学生15人が、昨年11月15日、アメリカ、カナダなどの観光客を乗せ新潟東港に入港した大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の通訳ボランティアにチャレンジしました。貴重な体験をした参加者からの報告です。

私は昨年の夏に、ニューヨーク・ランドへの短期留学でホームステイをし、英語のスピーキング力を向上させることができました。

大型クルーズ船の外国人観光客を案内するボランティアの募集を知った私は、留学で培った英語力を実際に活用してみたいと思い、参加しました。

私は、外国人のお客様を乗せて新潟市街の観光地を周回する観光バスに、ガイドとして添乗しました。最初は用意した原稿を読んで案内するだけでしたが、慣れていくうちに外国人のお客様と会話をすることもできるようになり、自身の英語力を活かせることに喜びを感じました。

有志15人 通訳ボランティアに挑戦 外国人観光客を英語でガイド

私のことを覚えてくださり、別れ際に「応援してください」と握手を交わしてくださいました。もういっしょにいました。

自分の力で外国人観光客をもてなすことができた実感、嬉しかったです。このような機会はないと思いましたが、英語力の向上には大切な経験だと感じました。
(国際学部1年 内藤奏音)

私は白山神社、白山公園でボランティアとして参加し、道案内や白山神社の説明をしました。初めはなかなか勇気が出ず、うまくできませんでしたが、回数を重ねるうちに外国人観光客が何を求めているのかを察し、自分から動けるようになっていきました。

今回のボランティアを通して自分自身の英語力がまだまだであることや、ボランティアの仕事の大変さと素晴らしさを学びました。ボランティアに就くことは何か、何が必要なのかを感じ取り、相手よりも先に動くことが大事であると思えました。

この貴重な体験を忘れずにこれからの将来につなげ、また機会がありましたら参加したいと思います。
(国際学部4年 渡邊陸)



観光バスに添乗して市内をガイドする内藤奏音さん

内田研究室の十日町活性化プロジェクト

内田亨教授（経営情報学部）のゼミナール・研究室が取り組んできた十日町市での地域活性化プロジェクトが一段落したのを機に、参加する学生から寄せられた2つの活動報告を紹介いたします。

私たちは昨年6月3日、十日町市で行われた「第20回笹山じょうもん市」の代表として参加しました。「笹山じょうもん市」は、同市中条の笹山遺跡で出土した火焰型土器の国宝指定を記念して始まったイベントです。



笹山じょうもん市PRパレード

私たちが2つの活動を行いました。一つ目は内田研究室の先輩から受け継いだ「縄文絵合わせ」

という神経衰弱に似たゲームでは、対象の小学生にどうしたら楽しんでもらえるか、事前にシミュレーションを何度も行いました。ゼミナール生全員の協力のおかげでイメージ通りに進行し、楽しんでもらった達成感がありました。

笹山じょうもん市

工夫凝らした縄文遊び

二つ目の活動は「縄文おみくじ」です。ゼミナール生全員で考えて作った大吉、吉、中吉、小吉の4種、合計48種類のオリジナルのおみくじです。こちらは幅広い年代の方におみくじを引いてもらい、「運だめし」をしていただきました。

私たちは現場に行くのが初めてだったので、戸惑うことが多々ありましたが、紹介したもののづくり企業は、魚沼酒造、大熊工業、高長醸造場、花水農産、ホクホク機械、メイケンの6社です。伝統を守りながらも常に技術革新に取り組むことで、より大きな世

ちよこつと十日町

伝統と技術活かす6社紹介

私たちが内田亨研究室所属の第8期生は、2018年2月末から2019年6月にかけて、小冊子「ちよこつと十日町・企業編」を作成しました。

研究室的先輩が2016年度に「ちよこつと十日町・宿編」を作成し、何度も増刷するほどの好評をいただいたのをきっかけに、今回は同市の中条地区振興会から、「ものづくり企業編」を作成してほしいという依頼を受けたのです。

界を目指す姿勢や経営者の方のインタビューを交えて紹介しています。多くの方に、特に地元の良さに気づいていない若者にも、楽しみながら読んでもらえるように工夫



小学生と一緒に「縄文絵合わせ」を楽しむ内田ゼミ生



作成した小冊子「ちよこつと十日町・企業編」

(情報システム学科2年 田中秀平・松本大樹)

(情報システム学科4年 佐藤紘子・鈴木尊就・加藤大和)

男子400mリレー 県陸上選手権で輝く2連覇

陸上競技部 活動報告



ライバル校の選手とともに男子400mリレー優勝で喜ぶ本学陸上部員(前列左から3人目青木、同4人目永井、後列左から3人目猪股、同4人目斎藤の各選手)。

陸上競技部は今年度、3つの素晴らしい成績を残しました。

特筆すべきは新潟県陸上競技選手権大会の男子4×100mリレーの優勝です。永井・猪俣・斎藤・青木の4人でバトンをつなぎ、全国でもトップクラスの力を持つ新潟医療福祉大との激戦を100分の2秒差で制し、昨年に続く連続優勝。創部以来初の2連覇を達成することができました。続いて2つ目は日本インカレへの出場です。私を含め4年生2名がそれぞれ100mと200mに出場しました。残念ながら二人とも予選敗退となりましたが、高校から共に走り続けてきたよ

きライバルと、学生最後の年に同じ全国の舞台に立てたことは非常に嬉しいことでした。

最後は茨城国体での成年少年男子共通4×100mリレーでの新潟県チーム(斎藤は3走)の6位入賞です。昨年出場した福井国体では、同種目で惜しくも準決勝で敗退してしまいました。

インカレ・茨城国体でも成果

そのリベンジに燃えて出場した今年の茨城国体では、決勝で6位に入賞し、昨年の雪辱を果たすことができました。個人種目で出場した100mは準決勝で敗れましたが、決勝に残れる力はあると感じる内容だったので、また来年度リベンジをしたいと思いをしました。

部(部員18人)は決して練習環境に恵まれている状況ではなく、毎日、新潟市陸上競技場まで通って練習しており、往復2時間ほどかかる部員も大

勢います。そんな中でも強くなれたのは、絶対に勝ちたいという強い意志を絶えることなく持ち続けていたからです。私は部活を引退しましたが、その意志を部員には持ち続けてもらい、来年さらなる飛躍を目指し、これから練習を頑張ってもらい、

FD研修会開く

FD研修会は2部構成で行われ、第1部では、講師にお招きした筑波大学人間系教授・竹田一則氏が、「大学における障害学生支援の現状と今後の課題」コンプライアンスとしての支援を考えると題して講演しました。



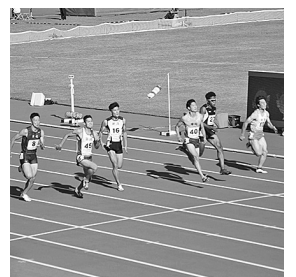
教育の資質向上を目指して行われた「FD研修会」

研修会は2部構成で行われ、第1部では、講師にお招きした筑波大学人間系教授・竹田一則氏が、「大学における障害学生支援の現状と今後の課題」コンプライアンスとしての支援を考えると題して講演しました。

「障害」テーマに講演と質疑

第2部では、本学教員による「教育改善の事例報告」が行われました。両学部を代表して経営情報学部・中田豊久講師と国際学部・佐藤泰子講師の2人が、「授業でのデジタルツールの有効利用について」事例発表したあと、意見交換が行われました。

本学では、今後も教育の質向上を目指す「FD研修会」などに組織的に取り組み、教育の一層の充実を図る方針です。



茨城国体の陸上成年男子100m準決勝(左から3人目が斎藤選手)

いと意思です。(陸上競技部主将 情報システム学科4年 斎藤大介)

3) 競争的資金獲得研究

今井 裕紀(経営学科・講師)

・(2019年11月より新規～2022年3月)平成30年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「青少年向けメンタリング・プログラムの基礎理論と政策的妥当性の検証」研究分担者

堀川 祐里(国際文化学科・講師)

・(2019年10月より新規～2021年3月)令和元年度科学研究費補助事業研究活動スタート支援「戦時期の母子保護法における適用水準と運用方針との関係性」研究代表者

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2019年10月より新規～2021年3月)平成30年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「新興国における汚職取締の政治学」研究分担者

4) 委員・社会的活動・記事・その他

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

・(2019年10月12日～11月9日)新潟市 観光・国際交流部 国際観光課11/15大型クルーズ船勉強会「おもてなし英語①②」講師(新潟国際情報大学・新潟中央キャンパス)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2019年10月18日)「西日本新聞」(10月18日付)「カンボジア緊迫 独裁政権、強硬策辞さず 逃亡元野党党首帰国へ」にコメント掲載

る！」新潟県国際交流協会(朱鷺メッセ)

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2019年9月12日)「ウエイトトレーニングの三大基本種目の1RMと疾走能力との関係について」第2報 一般女子学生及び陸上短距離部員を対象として」日本体育学会第70回大会(慶応大学・日吉校舎)

山下 功(経営学科・准教授)

・(2019年10月12日)「公共交通事業における日本とカナダの比較—独占と競争—」日本財務管理学会第49回秋季全国大会(青森大学・アラスカ会館)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2019年10月26日)「カンボジアにおける地方分権化と地方政治の変容」[体制移行]の比較解剖学:グローバリズム下の社会レジーム再編に関する総合的研究 全体研究会(京都大学)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

・(2019年7月18日)「韓半島における平和体制構築と日本一植民地支配、分断、そして6・25戦争」『南北日がともにする日帝強制動員被害と解決案』民族和解協力汎国民協議会(韓国・ソウル)

・(2019年8月14日)「韓日請求権協定完結論の克服—日本軍「慰安婦」被害に正面から向き合うために」『日本軍「慰安婦」問題解決のための歴史的課題』国際学術会議 東北歴史財団(韓国・ソウル)

企業懇談会に293社が参加



懇親会前に行われた垣添忠生氏の講演会

昨年の11月20日、新潟市中央区のANAクラウンプラザホテル新潟を会場に、「令和元年度企業懇談会」を開催しました。今年度は293社442人の皆様にご参加をいただき、本学教職員と卒業生や就職に関わる情報を交換しました。

はじめに野崎茂学長が開会の挨拶をし、ご臨席の皆様が卒業生が活躍できていることへの謝辞を述べました。

第1部の講演会では、講師にお招きした垣添忠生氏（日本対がん協会会長・国立がんセンター1名誉総長）から、「一人はがんとどう向き合うか」と題したご講演をいただきました。多くの患者を診察した経験や妻をがんで亡くしたことを踏まえて検診の

情報を交換し 支援を要請

新任教員紹介



安藤 篤也 (あんどう あつや)

情報システム学科 教授

担当科目 システム論

研究分野 無線通信

- 学歴**
- 2013年 3月 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 知能機能専攻 博士課程修了 博士(工学)
 - 1990年 4月 日本電信電話株式会社-NTT無線システム研究所(入社)
 - 2000年 4月 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)・環境適応通信研究所(出向)
 - 2003年 4月 NTTアクセスサービスシステム研究所(復帰)
 - 2014年 7月 NTT未来ねと研究所(2019年9月まで)

重要性を話され、病気を通しての人生観など学ぶことの多い講演会となりました。

第2部の懇親会では星野元理事長が、本学学生採用の御礼と今後に向けたさらなるご支援をお願いしました。また、ご参加いただいた企業団体様と教職員が、卒業生の近況や採用計画について情報を交換し、懇親



活発な情報交換が行われた懇親会

2020年度 一般入試日程

詳細は「2020年度入学試験要項」または本学ウェブサイト(<https://www.nuis.ac.jp/>)でご確認ください。

募集学部 国際学部 国際文化学科 経営情報学部 経営学科・情報システム学科

すべてインターネット登録を利用した出願です



入試のポイント

一般入試(前期・後期)で第3志願制を導入!!

第1志望の学部・学科が合格にならなかった場合には第3志望までの学部・学科で合否判定を行います。

一般入試(前期)で学費給付奨学生を採用!!

一般入試(前期)の試験結果から、成績上位者に、半期授業料の半額を給付します。奨学金試験を受ける必要も、事前に申請する必要もありません。
※每学期終了時ごとに継続審査あり。

給付額	給付対象	
半期授業料の半額	国際学部	国際文化学科 上位3名
	経営情報学部	経営学科 上位3名
		情報システム学科 上位2名

入試区分	出願期間		試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格発表日	入学手続期間
	インターネット出願登録	出願書類提出					
前期	2020年1月6日(月)~1月20日(月) 15:00まで	2020年1月6日(月)~1月21日(火) 【郵送必着】	2020年2月2日(日)	新潟 長岡 新発田	国語 数学 外国語 2科目以上選択	2020年2月12日(水)	2020年2月12日(水)~2月19日(水)
大学入試センター試験利用	2020年1月27日(月)~2月10日(月) 15:00まで	2020年1月27日(月)~2月12日(水) 【郵送必着】	2020年1月18日(土)、19日(日)の大学入試センター試験を受験していること		各学部・学科の利用教科・科目の中から2科目以上選択	2020年2月22日(土)	2020年2月22日(土)~3月2日(月)
後期	2020年2月25日(火)~3月2日(月) 15:00まで	2020年2月25日(火)~3月3日(火) 【郵送必着】	2020年3月9日(月)	新潟	国語 数学 外国語 2科目以上選択	2020年3月16日(月)	2020年3月16日(月)~3月23日(月)

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

- ・(2019年9月) 編著『歴史認識から見た戦後日韓関係「1965年体制」の歴史学・政治学的考察』社会評論社
- ・(2019年10月) 「日韓・日朝関係をどう解きほぐすのか 国交正常化交渉の歴史的経過から」『世界』岩波書店 7月13日号(204~212頁)
- ・(2019年10月) 川西裕也・川瀬貴也・吉澤文寿「書評 李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編著『世界歴史大系 朝鮮史』(全2巻、山川出版社、2017年)」「『朝鮮史研究会論文集』朝鮮史研究会 第57集(75~104頁)
- ・(2019年11月) 「最近の植民地支配責任をめぐる動向について—2018年10月の韓国大法院の判決などを糸口にして」『歴史評論』歴史科学協議会 835号(73~84頁)

2) 学会・研究会・講演等

今井 裕紀(経営学科・講師)

- ・(2019年9月1日) 「職務資源と職務要求の関係について：2時データからの検証」産業・組織心理学第35回大会(日本大学)

臼井 陽一郎(国際文化学科・教授)

- ・(2019年10月5日~6日) 「Brexitの政治とEUの規範：主権を政治化させない仕組みについて」(企画委員会企画・Brexit再考) 日本政治学会研究大会(成蹊大学)

- ・(2019年10月18日~20日) 「EUによるリベラル国際秩序? : その構想と手法」(共通論題) 日本国際政治学会(朱鷺メッセ)
- ・(2019年10月18日~20日) 司会と討論者「EUの新しい政策アプローチ」(国際統合分科会II) 日本国際政治学会(朱鷺メッセ)

越智 敏夫(国際文化学科・教授)

- ・(2019年10月5日~6日) 「戦後政治学における教科書の遍在とリーディングズの不在」日本政治学会研究大会(成蹊大学)

小林 伊織(国際文化学科・講師)

- ・(2019年10月27日) 「もっと!台湾。」新潟県国際交流協会国際理解セミナー(ときめいと)

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

- ・(2019年9月19日) "The Case Study Of Moocs For University Students In Japan" INTERNATIONAL CONFERENCE ON ENGLISH LEARNING ANDTEACHING (ICELT) (Flamingo by the lake, Kuala Lumpur)

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

- ・(2019年9月13日) 「日本の苗族研究(日本におけるミャオ族研究)」中日人類学術交流シンポジウム(北京市・中央民族大学)

瀬戸 裕之(国際文化学科・准教授)

- ・(2019年9月22日) 「ラオスから考える戦争と平和」2019年度国際理解セミナー『アジアを知

生まれ変わったキャリアサポートセンター

25周年記念事業の一環として改装工事を進めていたキャリアサポートセンターが昨年9月20日に完成し、誰もが気軽に多目的に利用できる空間として生まれ変わりました。

本学では学生一人ひとりと向き合い、希望する進路・就職の実現を目指しており、学生の就職活動も社会情勢に応じて「質」を変え指導支援をする必要があります。卒業後の進路の夢を実現するため環境を整え、学生一人ひとりに寄り添い、万全のサポート体制で臨むことが重要です。

これからの学生支援の在り方も、従来型の就職情報の提供から、就学力を高め自己成長を考えた支



多目的に活用できるコミュニケーションエリア

1人ひとりに寄り添いサポート



キャリア支援室の開放的な相談窓口

援へと移行しています。限られた学年、学生だけが利用するのではなく、全学年が気軽に利用できる空間を第一に考え、従来のボックスタイプからオープンスペースで学生と交流できることを重視しました。

なかでもコミュニケーションエリアは学生だけでなく職員もカウンターから出て活用できる場所となっています。さらに、目的や用途に合わせた少人数セミナーや就職ガイダンスの開催できる空間を設けました。普段はグループ学習や自習などに利用ができ、就職関連の情報誌などの閲覧や検索が容易にできる多目的ホールとなっています。

また、プライベートな相談など個別指導の個室も設け、学生の相談内容を考慮できる空間になっています。

創立25周年記念事業



学長、高橋同窓会長たちによる除幕式



除幕式であいさつする学長

本学の開学25周年記念事業として制作を進めてきた、本学創設者の故小澤辰男氏を顕彰するレリーフと、これまでの25年間の歩みを記したヒストリーパネルが管理研究棟エントランスホールに完成し、その除幕式が昨年10月4日に行われ

小澤辰男氏のレリーフ完成 本学のヒストリーパネルも

れました。レリーフには創設者の建学の理念や、当時小澤氏が学生によく話されていた中国故事に由来する「不苦去日多 只求失日少」という文字が刻まれています。除幕に先立ち野崎茂学長は「ここに本学のこれまでの足跡を列挙し、これからの25年、そして100年へと本学創設者故小澤辰男先生のご遺志を受け継ぎ、新たな歴史を刻んでいくよう努力してまいります」と述べました。

続いてレリーフ制作に協賛をいただいた本学同窓会（みずき会）の高橋毅会長が

「待ち望んだレリーフ、パネルが完成し、喜びに耐えませぬ。これからも新潟国際情報大学のますますの発展に寄与していきたい」と力強く述べられました。

除幕式には教職員、学生ら約50人が参加し、大学のさらなる発展に向けて決意を新たにしました。



小澤辰男氏のレリーフ

不苦去日多
只求失日少

去る日の多くを
苦しまず
ただ求めよ
失う日の
少ないことに